

校長会広報

No.871 令和 8 年 7 月 16 日
発行 岐阜県小中学校校長会
岐阜市菅原町 3 丁目 3 番地
TEL (058) 265-0338
FAX (058) 263-8892
代表者 上ヶ平 尚 久
印刷 (株) 杉江美術印刷

令和 8 年度

岐阜県小中学校校長会研修総会

令和 8 年 6 月 9 日

令和 8 年 6 月 9 日に「令和 8 年度 岐阜県小中学校校長会研修総会」をオンラインで開催した。

上ヶ平尚久会長は挨拶で、昨年度末に退職、及び役職定年を迎えられた95名の校長への感謝と、新たに加わった70名の新任校長への激励の言葉を述べた。



続いて会員に向け、校長自身が「学び続け」ながら、常に自校の児童生徒や教職員に寄り添い、ともに歩む管理職であってほしいとの願いを込め、次の2点について所感を語った。

1 時代背景と求められる「学び続ける力」

子供たちを取り巻く社会は、少子高齢化や不確実性がこれまで以上に高まっており、予測困難で激しく変化し続ける時代を迎えている。

このような時代にあって、子供たちには厳しい現実を受け止めつつも、自ら課題を見だし、その解決に挑む「学び続ける力」を身に付けてほしい。そして、この力は私たち校長自身にも求められている。

2 学校経営の在り方と本会の意義

現在、教育現場には不登校や教職員不足など、次々と新たな課題が押し寄せている。こうした課題に対応するためには、学校だけで抱え込むのではなく、校長が学校経営の軸を明確に示して学校経営をすることが求められている。

これからの学校経営には「安心して挑戦できる学校づくり」が不可欠である。子供や教職員が力を発揮できるよう、管理職自身も一人で悩みを抱え込まず、相談し合える場として、本会を通じた連携をさらに強めていきたいと述べた。

また、本小中学校校長会は義務教育に携わる校長を代表して行政等に「学校の声」を届け、教育への理解者を広げる役割を担っていることにも言及した。

最後に、先輩方が紡いでこられた教育への願いを受け継ぎ、子供たちが「持続可能な社会の創り手」となるよう、校長が一丸となって教育の未来と真摯

に向き合う本会の総意を確認し、挨拶を締めくくった。

次に、岐阜県教育委員会の浅井孝彦義務教育総括監による講話を聴講した。

「校長先生、幸せですか」との問いかけから始まり、下記の三点について語られた。

○夢を語っていますか？

少子高齢化や予測困難な時代の到来、多様な価値観との共存という子供たちが生きるこれからの社会



について、子供たちの目線で捉え直し、明るい未来を切り拓くために教師自らが夢を語る存在であるべきだと訴えた。そのためには、校長自らが夢や理想を語り

幸せを感じていることが大切である。

○自分に合ったリーダーシップを

リーダーシップは、資質や能力ではなく行動である。校長の取るべき行動とは、視座を高く持ち、進捗状況を把握し、人的な配置や方向性を示し決めていくことである。物事を見る立場や姿勢を高く持ち、全体がよく見えるように心がけることで、自分に合ったリーダーシップをとることができる。

○職場に幸せを生み出すために

教職員のケアと承認を大切に、「人が育つ」環境を整える学校づくりが必要である。

「人間の最大の罪は不機嫌であること」との言葉を紹介し、校長自身が自らを知ることの大切さが示され、講話が締めくくられた。

<http://kochokai.com/>

※講話資料は岐阜県小中学校校長会HPに掲載しております。



(揖斐川中学校 馬淵 勝弘)

小学校長会研修総会

五藤政志会長は、岐阜県小学校長会の令和8年度活動方針を踏まえ、本会が果たす役割を語った。

■実践研究を継続する

岐阜県小学校長会は、教育の振興発展と教育行政との連携を目指している。その実現に向け、「校長のリーダーシップ」をキーワードに、実践研究を継続する。

■明るい未来を創り出すリーダーシップを磨く

現在の学校は、予測困難で先行きが不透明な状況の渦中にある。不登校、いじめ、教職員の休職など、先送りできない問題に直面しており、不祥事の根絶、働き方改革等も喫緊の課題である。校長は、日々、事実や情報を正確に把握し、迅速かつ的確な決断をすることを求められている。

一方で、次期学習指導要領改訂の議論では、「『主体的・対話的で深い学び』の実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の方向性が示され、それらを踏まえた学校経営も求められている。

こうした激動の時代を切り拓き、明るい未来を創り出すために、校長のリーダーシップは一層重要なものとなっている。

■「学び」と「つながり」を大切にす

校長のリーダーシップを磨くために、「学び」と「つながり」を大切にしていきたい。「学び」とは、子どもと教職員の可能性を信じ、学校という共同体を未来へと導くために学び続けることである。「つながり」とは、校長同士が絆を深め、多様な取組や価値観に触れ、視野を広げる営みである。

本年度は、現在の研究体制による取組の最終年度に当たる。さらなる「学び」と「つながり」を大切にしながら、実践研究の成果をまとめ、発信していきたい。

その後、本年度の活動方針や重点、研究組織等について提案が行われた。最後に、第61回東海・北陸地区連合小学校長会教育研究福井大会で発表予定の第6分科会「健やかな体」（高山市）、第11分科会「社会形成能力」（瑞穂市）の具体的な実践発表を通して、見識を深めた。

（大垣・北小学校 遠藤 由康）



中学校長会研修総会

平塚剛会長は、互いに支え合う岐阜県中学校長会の意義とともに、令和8年度の方向性と活動方針を語った。

■活動の方向性

地域の中学校として、その信頼に応えるため、教育活動の基盤を確かなものとする。同時に次期学習指導要領を見据え、攻めの姿勢で学校経営を進める。守りと攻めの両面から重点課題に取り組んでいく。

■重点1 校長の資質向上

喫緊の課題についての理解を深めるとともに、その解決に向けた校長の指導性について、互いに学ぶ合う。

■重点2 関係機関との連携・協働

進路指導では、県教委や高校との信頼関係を深めながら、正確かつ効率的な入試事務を推進する。公立高校の倍率低下や多様な進学形態を踏まえ、複雑化する入試制度や入試の早期化にも対応していく。

生徒指導では、県教育委員会との連携を一層強化し、危機管理の充実を図る。

部活動では、地域展開されたクラブとの関わり方や、平日の部活動の在り方について考えを深めていく。

また、予測困難な時代の中で迅速かつ適切な判断が求められている。危機管理や教育課程、行事運営などにおいて、適切に対応していくため、各地区の実践や工夫を共有するとともに、積極的な情報提供に努めていく。

その後、令和7年度の会務・会計報告、令和8年度の活動計画と予算案、研究推進、中体連事業、進路指導、生徒指導に関する提案に加え、11月20日に開催される岐阜県中学校長会研究総会美濃地区大会について説明があった。支え合う中学校長会として、中学校教育のさらなる充実を図りながら、県民の期待に応えていく方向性を共有することができた。

（西可児中学校 笠嶋 誠）



良質で安価な読み物を子供たちの手に

出版事業委員会委員長 宗 宮 昭 雅

1 良質で安価な読み物を届け続けてきた校長会

私たち岐阜県小中学校長会は、『夏の友』『冬の友』『夏の生活』をはじめとする出版物を「良質で安価な読み物を、子供たちの手に」の願いのもと、編集・出版してきました。

良質な読み物であり続けるために、毎年、岐阜県内の多くの先生方の手により編集しています。今年度は、『夏の友』『冬の友』は、51名、『夏の生活』は、32名の編集委員の先生により編集されています。学習指導要領や岐阜県教育振興基本計画をはじめとする岐阜県の教育にも精通し、何よりも岐阜県の子供たちを深く理解した先生方が、表紙・読書・郷土読み物・宝物・家庭地域・学習などの領域ごとに、繰り返し検討を重ねながら丁寧に編集しています。こうした編集体制こそが、本冊子が良質であると自負する理由です。『夏の友』は80年近くの歴史があります。時代に即した冊子であり続けることができたのは、岐阜県の先生方が、毎年改良を重ねてきたからです。

また、この良質な冊子を安価に提供できるのは、編集委員の先生方のご尽力と、出版事業委員の校長先生方による注文の取りまとめにより、必要な冊数を見極めて印刷・販売しているためです。

校長先生方のご理解とご協力、さらには県内の先生方のお力により、子供たちに良質で安価な読み物を届け続けることができていますことに、改めて感謝申し上げます。

2 長期休業の豊かな体験とともにある冊子

『夏の友』『冬の友』『夏の生活』は、長期休業中、子供たちが豊かな体験と感動ある充実した生活を送る中で、生きる力を身に付けることができるよう、暮らしや学習の総合ガイドブックとして、編集・出版しています。

(1) 夏の友・冬の友（小学生）

これらの冊子を活用して充実した長期休業を過ごすことができるよう、領域ごとに改訂を重ねています。編集方針は、次のとおりです。

①自ら考え、意欲的に研究や作品づくりができるようにする。（確かな学力）

②豊かな郷土の自然や文化に触れることができるようにする。（豊かな心）

③進んで運動に取り組み、健康な体づくりができるようにする。（健やかな体）

(2)夏の生活（中学生）

生徒を直接指導する先生方の声を反映し、内容の充実を図っています。編集方針は、次のとおりです。

①家庭で過ごす長期休業を、自主的・自発的に、そして有意義に過ごすことができる「ガイドブック」とする。

②生徒の具体的な行動（体験の入り口）につながる内容・構成とする。

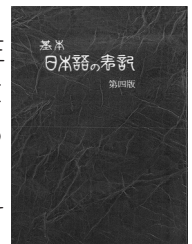
③生徒が、自ら読み、理解し、行動できるよう編集する。

3 生き方を豊かにし、未来を育む出版物

子供たちの豊かな生活を願い、次の出版物も刊行しています。

(1)基本 日本語の表記

日常生活に必要な様々な語句の正しい表記の仕方が、豊富な用例とともに掲載された実用的な冊子となっています。卒業記念品のみならず、多くの先生方にもご活用いただいています。



(2)ひとりだち

人間形成を図る中学校の時期に、心に火を灯すこの冊子を「一人でも多くの生徒に手に取ってもらいたい」という願いのもとに編集された一冊です。卒業記念品をはじめ、図書館の蔵書などとして、多くの学校に届けています。



今後も子供たちに「良質で安価な読み物」を届けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

"地域の学校"の具現をめざして

～義務教育学校開校までの道のりとこれから～

多治見市立笠原小中学校長 熊崎 健一

9学年の子供たちが、入り混じって登校します。大きな子たちも、小さな子たちを追い越すことなく、歩を合わせて歩いてくれます。通称"地獄坂"を上り切ると、そこに真新しい校舎が待っています。

本校は、今年度より義務教育学校として新たなスタートを切ることになりました。新校舎建築中の過去2年間は、旧笠原中学校地内で小・中学生が共に過ごし、一丸となって開校の準備を進めてきました。ここでは、これまでの歩みの一端をご紹介します。

■小・中合同での自治活動や学校行事

児童会と生徒会を統合し、児童生徒会を発足させました。執行部や各委員会では、中学生が会長・委員長を、小学生が副会長・副委員長を務めます。総会には小5以上が参加しますので、当初は、提案の言葉選び（中3の話が難しい!）にも四苦八苦。それでも徐々に馴染んで、活動を進めてきました。

昨年10月には『スポーツフェスティバル』を開催しました。小学生と中学生が交互に列を作って、いよいよ開会。進行も協力して行います。小・中関係なく声援を送る姿や中学生が小学生を気遣う姿は、とても微笑ましいものでした。小・中学校が一つになることを実感させる熱い一日となりました。

■小・中教員の相互乗り入れによる教科指導

学年2学級の単独中学校の場合、どうしても免外指導に頼らざるを得ません。しかし、開校前2年間、小・中学校のほとんどの教員が兼務となったことで、中学校では免外指導がかなり解消され、小学校でも高学年を中心に教科担任制を実施できるようになりました。今後は順次拡充し、早期から専科教員による指導を行うことで学力向上を図っていきます。

■義務教育学校化に伴う学校支援体制の再構築

学校を支えてくださる大きな組織としてPTAがあります。昨年度は小・中学校それぞれにPTAを組織していましたが、一つの組織となるための協議は合同で行ってきました。新しいPTAが"学校の最強の応援団"であり続けるために、役員数や役割、加入条件、会費等まで広く見直しを図り、新たな規約にまとめ上げました。おかげで、今年度のPTA活動は円滑なスタートを切ることができています。

学校運営協議会については、昨年度から前倒しで一つの組織として運用しています。小・中学校ともにコミュニティ・スクールとなった初年度でしたが、地域代表の皆様には、趣旨や制度、学校経営方針にご理解をいただき、しっかりと子供たちを支えていただいています。今年度は、委員のみなさんと児童生徒代表がまちづくりについて考える『Student×地域 まちミーティング』にもチャレンジします。

また、登録制学校ボランティア『かさはらスマイルサポーターズ』も立ち上げました。行事や授業支援などで幅広くお力添えいただくことになります。

このように、地域人材を積極的に学校へ迎え入れ、子供たちとの直接的な交流を通して、学校の様子をより深く知っていただきたい。そして、まだまだ「敷居が高い」といわれる学校を、地域コミュニティの核へと発展させていきたいと考えています。

■9か年を貫く外国語教育・国際理解教育

笠原小・中学校には、平成15年度から5期15年間、文部科学省研究開発学校として外国語教育の充実に取り組んできた歴史があります。平成30年度からは、小学校が教育課程特例校として、小1～小4の外国語科の学習を維持・継続しています。

昨年6月には、中3が修学旅行でTGG（TOKYO GLOBAL GATEWAY）を訪れ、英語によるコミュニケーション力の力試しをしました。12月には、10年ぶりに国際交流会を復活させ、全生徒が岐阜大学の留学生24名との交流を楽しみました。1月には、小6と中2が、NOVAの体験プログラムに参加しました。今後も、本校の特色ある教育活動として外国語科及び国際理解教育の取組を大切にしていきます。

■"地域の学校"への思い

笠原町は、多治見市に合併して20年を迎えます。合併前の土岐郡笠原町の時代から「笠原の子は、笠原で育てる」という子育ての風土が醸成されており、幼保小中一貫教育にも先駆的に取り組んできた地域です。この地に産声を上げた本校が、子供たちにとっては「通いたい学校」、親御さんにとっては「通わせたい学校」、そして地域の期待や負託に応える"地域の学校"となることを目指し歩んでいきます。

自己紹介

各務原市教育長 丹羽 章

<はじめに>

令和6年7月13日付で各務原市教育長を拝命しました。校長先生方の目には、元々は高校籍の私がどのように映っているのでしょうか。

さて、私が教員になりたいと最初に思ったのは、小学校5年生の時です。担任であった「後藤宏一先生」の影響です。後藤先生は当時、新規採用教員であったか、若しくは2校目の若手教員でした。かなり腕白であった私は、いつも厳しく指導されていましたが、先生にはどこかに優しさもあり兄貴のような存在だったと思います。世の中に職業が数多ある中から、一番身近な職業人に憧れ、なんとなく「先生」になりたいと思いました。

中学に入り、教科担任による専門性の高い授業を受けることになりました。中でも理科の「小野木三郎先生」の授業には、毎時間、毎時間ワクワクさせられました。先生は、知識も豊富で、いろいろなエピソードを交えた軽妙な語り口の授業に私はほとんど小野木ワールドに引き込まれていきました。授業が終わると、次の授業ではどんなことを教えてくれるのか本当に楽しみでたまりませんでした。私は、だんだん「理科の先生」になりたいと思うようになりました。

高校に入りました。中学までは勉強も運動も人並み以上だと思っていたプライドが粉々に崩れていきました。どの分野においても上には上がいる。周りの人と自分を見比べる毎日に、ついに不登校気味になってしまいました。1週間程でしょうか、学校を休んだ気がします。心配して戸惑う母親の姿を見て、申し訳ない気持ちでいっぱいになり、意を決して登校することにしました。母親から相談があったのだと思いますが、早速、担任の「辻村秀夫先生」に呼ばれ、「そんなに他人と自分を比べるな。丹羽は丹羽で良いところがたくさんあるじゃないか。」と声をかけられました。気持ちががすごく楽になったのを覚えています。その辻村先生はたまたま生物の先生だったのです。私は、子供たちに寄り添う「理科の生物の先生」になりたいと思うようになりました。

このように私は本当に身近な生活の中で自分の職業を選択したわけですが、自分の人生を決めたのは間違いなく「義務教育」の影響であり、「義務教育」は人生を左右する大変重要な時期であることを改めて肝に銘じています。

<ウォーキング>

ちょうど40歳になるタイミングで高校から県教育委員会に異動することになりました。それまではテニス部の顧問として生徒たちと一緒にボールを追いかける日々を送っていましたので、「教育委員会に入るとデスクワークが多くなり運動不足になるぞ」との先輩からのアドバイスに何かしなくてはと考えてはいました。新しい職場に入るとやはり日常的にデスクワークばかりで、授業で教室に行ったり部活動で汗をかいたりといった生活とは全く異なる日々となりました。対策をいろいろ考える中、その当時はベルトに挟む形の万歩計が流行っていたので、早速購入して周りをウォーキングすることにしました。**それがハマりました。**体調は良く、体重も維持されました。それが日課となり現在に至っています。

40歳の時から今までほとんど毎日1万歩歩いてきました。トータルすると驚く距離を歩いたことになっているはずです。何でも長続きしない私にとってウォーキングはまさに生活の一部となっています。仕事があまくいかず、夜布団の中で重い気持ちのまま朝を迎えた時でも、悩みを考えながら朝ごはんまでウォーキングをすると、ポジティブになり、思いがけない解決策を思いついたり、すっきりとする落としどころが見つかったりするなど前向きな気持ちになります。本当に不思議です。誰もがいつでも始められるウォーキング。ぜひお勧めします。

<野菜作り>

自宅から20mほど離れたところに畑があります。5月現在、**育てている野菜**は、ネギ、ナス、キュウリ、オクラ、シシトウ、サツマイモ、サトイモです。うまくできる年もあれば、大失敗の年もあります。大根が50本以上できた年もありますし、発芽したものの、間もなく虫に食べられ全滅したこともあります。それでも野菜を作り続けるのは、自分で作った新鮮で無農薬の野菜が美味しく、可愛いからです。しかし、これからが本格的な草との戦いです。

東西南北

ふるさとを愛し 心豊かに自立する子

高山市立栃尾小学校長 佐藤 秀彦

本校の校歌は、「四方に連なるアルプスの雄々しき姿あおぎみて」の一節からスタートします。この歌詞のとおり、本校は大自然に囲まれ、子供たち（令和8年度19名）は四季折々の景色を堪能しながら多くのことを学んでいます。

1 観光マップづくりでふるさとの魅力発信に一役

本校では、「スマ栃プロジェクト」として、ふるさと教育に継続して取り組み、地域の自然、観光、産業、伝統文化などから、ふるさとの魅力を学んでいます。そんな中、地元観光協会や企業と協働し、ふるさとの魅力を発信する機会を得ることができました。この取組を通してふるさとの魅力を再発見することができました。そしてそれだけでなく、自分が暮らす地域の基盤づくりに自らの手で貢献できた経験は、子供たちの大きな自信と笑



奥飛騨マップ

顔につながりました。

2 自然災害と共生する地域づくり

本校が位置する奥飛騨温泉郷は、過去に大きな自然災害に見舞われたことから、防災意識の高い地域です。本校の防災学習において、「活火山焼岳噴火のしくみ」「森林や砂防ダムの役割」「風水害への対応のしかた」などを、地域住民、各種団体、大学関係者、防災士など多くの方々の協力を得て学んでいます。



火山学習

災害発生のメカニズムと危険性を理解するとともに、災害時には状況に応じた適切な避難行動をとるための力を身に付けてほしいと身に付けてほしいと願っています。

高山市では、「対話から議論！より深い学びへ」を授業・活動のキーワードとしています。児童間の対話や議論を大切にするとともに、地域や外部の方の協力を得ながら、子供たちを育てていきたいと考えています。

「90%の可能性」をキーワードに

瑞浪市立瑞浪北中学校長 吉田 知己

本校は、「自ら学び 自ら鍛える」を教育目標に掲げ、「生徒の自立を願い、主体性を身に付け、仲間とともに学び、ともに伸びる喜びを実感できる学校」を目指して教育活動を推進している。その中で、一人一人の生徒が自ら考え、判断し、行動できる力を育むことを大切にしている。

社会が大きく変化する中、子供たちには「言われたことをきちんとやる力」だけでなく、自ら問いをもち、多様な仲間と協働しながら、よりよい答えを見だしていく力が求められている。本校では、生徒が主役の学校づくりを基盤に、主体性とは何かを職員で共有し、生徒会活動や学級活動、授業において、生徒自身が考えを出し合い、課題解決に向かう場面を意図的に位置付けている。

また、今年度は「90%の可能性」をキーワードとして掲げた。これは、生徒自身もまだ気付いていない可能性を、仲間や教師との関わりの中で引き出したいという願いを表したものである。そのため、失敗を恐れず挑戦できる環境づくりを重視し、「間違えてもやり直せる」「何度でも挑戦できる」、学校風

土の醸成に努めている。授業では、互いの考えを認め合う学び合いを大切に、生徒支援においても、一人一人の思いや背景に寄り添う姿勢を重んじている。

さらに、本校はコミュニティ・スクールとして、地域と結びついた学校づくりを進めている。地域行事やボランティア活動への参加を通して、生徒が地域社会の一員としての自覚を高めるとともに、人の役に立つ喜びや、人から感謝される経験を積み重ねている。こうした活動は、生徒の自己有用感を高めるだけでなく、地域とのつながりを深め、自分たちのふるさとに誇りをもつことにもつながっている。

今年度の生徒会スローガンは「歩（あゆむ）」である。一人一人が自ら一步を踏み出し、仲間とともに歩みながら、自らの手で北中を創り上げたいとの願いが込められている。今後も、生徒の主体性と可能性を信じ、地域とともに歩みながら、「明日も来たい」と思える瑞浪北中学校づくりを進めていきたい。



ふるさと「関」に誇りをもち 豊かな心で 未来を切り拓く 人づくり

関市小中学校長会

1 はじめに

一般的な椅子の背もたれは、ほどよく背中を預けるのにちょうどよい角度「105°」に設定してあるという。関市小中学校長会も同様に、互いに依存し過ぎることなく、また孤立することなく、適切な連携を図っている。ふるさと「関」に誇りをもち、豊かな心で未来を切り拓く人づくりを通して、夢のある明るい学校づくりをめざしている。

2 活動の方針

- (1) 関市の学校教育の方針と重点の具現を目指す中で、今日的な教育課題の解決に努める。
- (2) 関係諸機関や団体との連携・対話を深め、実効性のある活動を展開する。
- (3) 教育の充実・発展を図るために、積極的・継続的な提言・要望活動を展開する。

3 重点

- (1) 一人一人の児童生徒が生きる力をバランスよく伸ばすとともに、児童生徒が主体的に学びに向かう教育の充実を図る。
- (2) 今日的な教育課題についての研修を通し、経営力や指導力の向上を図る。
- (3) 家庭・地域と連携し、ふるさと関への誇りと愛着を育む教育を推進する。
- (4) 学校教育のビジョンを描き、その基盤を担保するための積極的な提言・要望活動を推進する。

4 運営

- (1) 全体会
 - ・教育長講話、教育委員会示達、県・地区・関市小中学校長会の動きや2委員会などの報告を行っている。
 - ・必要に応じて全体で研修する機会を設定している。
- (2) 2委員会・役員会
 - ・人材育成委員会…教員養成研修やスクールリーダー、ミドルリーダー養成研修を推進する。
 - ・教育課題改善委員会…要望事項を精査し、今日的課題について研究する。
 - ・役員会…学校教育課長を交えて各種課題への対応について協議する。
- (3) 小中学校別全体会
 - ・情報共有シートへの記入を通して、各校の実践を効率的に共有している。
 - ・生徒指導をはじめとする諸課題について、緊密な情報交換を行っている。
- (4) 小中学校別研修会
 - ・各部会の推進委員のリーダーシップによりそれぞれの研修計画を立案し、計画的・継続的・累積的に研修を行っている。

5 おわりに

関市も学校の再編成が進み、現在は25校（16小学校・9中学校）となっている。児童生徒数の減少に伴い、教育活動も変化への対応を求められている。今後適時適切に情報を共有し、学校運営の最適化を図っていきたい。



『長寿命化改良工事』を通じて、学びを深める

可児市立桜ヶ丘小学校長 山本 学

本校は、令和6年度と令和7年度の2年間をかけて『長寿命化改良工事』を行いました。開校から数えて45年目を迎える年のことです。

『長寿命化改良工事』とは、ワンフロア（例えば北舎1階）を単位として各教室や廊下等をリニューアルする工事です。リニューアル工事が完了すると、別のフロアで学んでいた学年（例えば北舎2階の3年生全クラス）が新しい教室へ移動し、新たな学びを始めます。その後、空いたフロアの改良工事が始まります。つまり、校舎内を学年単位で移動しながら、同時に工事が進んでいく形になります。

学校づくりのコンセプトは、子どもたちが過ごしやすく、教職員が働きやすい学校環境づくりです。一例として、子ども達の階段における、けが状況を分析し、階段の最初の段と最後の段に黄色の滑り止

めを設置することで、自然な形で注意喚起することができ、階段での、けがは激減しました。

また、日頃から校内で作業される工事関係者の働く姿を間近に見ることができたことは、「キャリア教育」の一環として大いに役立ちました。さて、この写真は、



6年生国語科の「聞いて、考えを深めよう」学習で、建築工事の現場代理者の方をインタビュー相手として選び、自分たちで質問内容を考え、直接お話を伺っている姿です。本校ホームページにも掲載されています。

この改良工事のおかげで、新たな学びの機会が生まれ、深い学びにつながったことに感謝しています。

「4つの伝統」を本物の伝統にしよう

大垣市立東小学校長 小倉 正裕

東小学校には、「あいさつ」「掃除」「歌声」「温かいかわり」というみんなが大切にしている「4つの伝統」があります。

これらの伝統は、毎年先輩から後輩へと引き継がれていますが、東小学校がめざす「あいさつ」とは、どのような姿なのでしょう。「掃除」「歌声」「温かいかわり」も同じです。

大切なのは、それらの言葉だけを引き継ぐのではなく、そうすることのよさや価値についての理解を深め、めざす姿を明確にして、それを「自分たちの言葉」や「姿で示す」ことではないかと思うのです。

このことについて、児童会とも一緒に考えたいと思い、今日の代表委員会に参加させていただきました。

私は、4つの伝統を、どの子も、どの先生も胸を張って「本物の伝統」と言えるものにしていきたいと考えていますが、みなさんはどう思いますか。

まずは「あいさつ」についてこの代表委員会で話し合い、具体的な動きを考えてみてください。そして、自分たちで考えて決めたことを、みんなでやりきっていくことで、東小の「あいさつ」を自慢できる「本物の伝統」にしていきたいと思います。

あなたたちなら、きっとできると思います。私も精一杯応援していきます。

【講話のねらい】学級代表や委員会の委員長が集まる代表委員会での校長からの提案内容（一部抜粋）です。今一度、自分たちが誇りに思える伝統とはどんな姿なのか、めざす姿を話し合うきっかけになることを願いました。

令和8年度「挑戦」Sports Day

羽島市立羽島中学校長 杉山 正高

今年の生徒会スローガンは「挑戦」です。私はこの言葉を聞いたとき、胸が熱くなりました。

SportsDayとして、新しい形で行われるこの行事自体が、学校としての大きな挑戦だからです。しかし、「挑戦」とは、当日だけ派手に動くことではありません。

生徒会が種目やルール等、新しい体育祭を考えてくれたこと、縦割りで練習してきたこと、バトンパスのわずかコンマ数秒を削るために、ぶつかり合い、話し合った放課後。その「事前の取組」の中にこそ、本当の挑戦がありました。今日という日は、その挑戦の積み重ねを証明するステージです。綱引きは、一人の百歩よりも、全員の一步が勝る競技です。リレーは、仲間の汗が染み込んだバトンに、自分の祈りを乗せて繋ぐ競技です。勝敗は必ずつきます。

しかし、今日私が皆さんに求めるのは、勝ち負けを超えた先にある「やりきった」という手応えです。自分に、そして仲間と共に全力を出し切ってください。君たちが泥臭く、ひたむきに「挑戦」する姿が楽しみです。

さあ、準備はいいですか！羽島中学校の新しい歴史の1ページを、君たちの手で、最高に熱いものに塗り替えましょう。



【講話のねらい】学校行事に生徒の新しいアイデアや風を取り入れながら進めています。「事実の裏にある真実」を価値としてほしいと願い、生徒に語りました。



◆会議案内（8・9月分）

小中学校長会				小学校長会				中学校長会			
月日	曜	時	会議名	月日	曜	時	会議名	月日	曜	時	会議名
8.21	金	11:30	退職校長会との懇談会	8.20	木	9:30	役員会⑦				
9.3	木	14:00	役員会⑩	9.3	木	10:00	理事会②	9.4	金	10:00	企画委員会⑤
28	月	10:00	詩と作文コンクール審査	8	火	10:00	分科会委員長会③	11	金		私学協会との懇談会②
28	月	14:00	市町村教委連合会懇談会	16	水	9:30	役員会⑧				
				30	水	14:00	全連小理事会				

編集後記

「校長だからこそ、学び続けることが大切ではないかな」――。教育長からいただいたその言葉に背中を押され、連合教職大学院での学びも2年目を迎えました。各会合で他の校長先生方の熱心な姿に触れるたび、感銘を受ける日々です。本号が皆様の学びの一助となることを願い、心を込めて編集いたしました。（M）